

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある「ひまわりのような笑顔」を全職員で大切に、温かな雰囲気に含まれた事業所を目指している。またできる限りではあるが個々の希望をかなえることで、「自由な明るい生活」の提供ができるよう努めている理念はロッカールームに掲示し、始業前に必ず読み、仕事に反映するようにしている。	玄関、ロッカールームに掲示されています。「ひまわりのような笑顔」という誰もが分りやすい理念の為、スタッフ全員が常に意識できています。毎日、出勤者は必ず読み上げて仕事に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前と比較すると、地域との関わりは減ってしまった。代表や管理者が地域の行事に参加させていただいたり、区の山車が慰問に来て下さるなど、継続している関わりもある。日々の生活の中では散歩の際の近隣の方との挨拶やちょっとした立ち話をする機会を大切にしている。	経営者、管理者が地元で生活をしている為、地域の方とのコミュニケーションは良好です。散歩時に声をかけてくださったり、野菜を届けてくださったりもします。秋祭りには山車が事業所前に来てくれるので入居者もお祭りを楽しまれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがいるため、認知症サポーター養成講座の依頼があるときにはできる範囲で参加させていただいているが、今年の依頼はなかった。地域の方にとって身近に相談できる専門職として認識いただけるよう今後も努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	11月より対面での推進会議を再開した。議事録には事業所が毎月発行しているお便りを添付し、言葉だけでなく雰囲気を見ていただくよう努力している。まだ事業所内を見たことのない方もいらっしゃるため、感染症が落ち着いたころに、見学も計画している。	会議には地域の方が8名前後は参加しています。包括支援センター、市の方も参加しています。事業所の状況説明、意見交換もあり、参加者の疑問にはその場で回答されています。不参加の方には、入居者の表情がわかる写真付きのお便りを添付し、見て頂いています。	地域の方、包括支援センター、市の方の参加はありますが、入居者・家族の参加がないようです。家族から「安心して任せられることができる」と感謝されていますが、今後1名でも参加していただけることを願います。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の際にこちらの現状の把握をしていただいている。困りごとは常に相談させていただき、アドバイスや助言をいただくことが多くあり、また行政の方から相談をいただくこともある。市役所に向くことが減ったが、今後も関係性の継続を心掛けたい。	運営推進会議には常に参加してください。管理者も困った事・疑問・スタッフ体制など市担当者から随時アドバイス・指導をもらっています。気になることは細かい所でも相談をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の研修の際に、禁止事項の具体例や3原則など、大切なことを繰り返し学びんでいる。また3か月に1回の身体拘束委員会の開催の際には、日々の支援に間違いがないか話し合いをしている。身体拘束につながりそうな事案は、代替策を考え、実践、評価している。	研修の他に入居者の状況で身体拘束になりそうなことは会議・申し送りなどで随時検討しています。浮腫み軽減の為にセンサーマット設置など身体拘束になりそうなことについては市担当者にも相談にのっていただいています。スピーチロックについては理由を伝えながらお待ちいただくなど言葉に気を付けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の研修の際には、虐待の具体例やグレーゾーン、虐待につながる行為、職員のアンガーマネジメントなどを学んでいる。身体拘束委員会と同時に虐待防止委員会を開催し、日々のケアに当てはまるものはないか、つながる事案はないか確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用される方や検討に値する方はいなかった。職員間の認識は、言葉は知っている、なんとなく知っている、ある程度理解しているなど、差があるのが現状。しっかりと学べるよう機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な説明を行い、心配なことや不安な点を伺い、解消したうえでご契約いただくよう心がけている。契約後に相談があった際には、迅速に対応し、安心していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とお話をする機会があるときには、ご意見や要望をお伺いし、できるだけ反映するように心がけている。また日々の会話からも聞き取るようにしている。	来所されるご家族、お電話で連絡を取り合うご家族、それぞれいらっしゃるが、常日頃から意見や要望を聞き取るようにしています。外出を喜んでおられるご家族が多く、コロナ渦で外出頻度が減った際には、外出の希望があったとのこと。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々活発に意見が交わされているためあえて機会は設けていない。ミーティング時にもお互いに対等に話し合いができる関係性があるため、その結果を反映することができている。管理者の判断では決められないことは社長と相談し、実現に努めている。	スタッフから玄関の上がり框について意見がでてすぐにフラットにする工事をしました。その為、入居者の行動範囲を広げることができ、転倒のリスクもなくなりました。朝夕の申し送り時にも介助方法・食事内容などの意見があがり随時反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は常に現場にいるため、職員との会話も多く個々の性格や働き方を把握している。管理者が就業環境についての相談をすることもあるが、その際には迅速に対応できるよう個々面談を行っている。子育て中の職員もいるが、働きやすい環境づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は個々の経験年数や力量に合わせた研修に参加するよう声をかけている。外部研修はZOOMで行うことが多く、またミーティングの際にはその時必要だと思うことをテーマに勉強会を開催しているため、職員も参加しやすく学ぶ機会を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	以前は、研修や合同運動会など、関わりを持つ機会が多かったが、コロナ禍になり激減している。しかし管理者は他事業所の管理者と連絡を取り合い、情報交換は絶えず行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多くの不安を抱えている方が多いので、なるべく解消してから入居していただいている。入居後にもきめ細やかな声掛けを行い、安心していただけるよう心掛けている。また会話から知りえた情報は、職員間で共有し、ご本人様に寄り添える支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族様は複雑な思いをもっている方が多く、どのような気持ちで入居を決めたのか、今までのご本人様の様子、心配事などをお話しいただけるようになっている。その上で、ご家族の気持ちを理解し、安心していただけるよう努めている。入居後も常に相談ができるようお声がけをし、継続的な関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった段階で、ご本人様の様子や、ご家族様の意向や思い、困っていることを伺った上で、他のサービスの方が適切だと判断した時には、そちらの提案もお行っている。入居後も状態の変化に応じ、必要とされるサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする者同士ととらえ日々過ごしている。利用者様からは、生活の知恵をいただいたり、悩みを聞いていただくこともあるため、職員も助けていただいている。お互いにできないことやわからないことを埋め合っているような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を共に支える者同士ととらえている。ご家族様の気持ちを共有し、同じ思いでご本人様のケアをさせていただくことで、自然と良い関係性が築けると思い、心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会に来る片は減りましたが、馴染みの人と会うことは、ご本人様にとってとても大切な時間だと思っているので、面会の依頼があった時にはできる限り対面での対応をしている。	兄弟に会いたいという入居者の希望をコロナ禍でも外出をしていただきました。コロナ禍でも安心してお出かけいただけるよう帰宅後に検査をしていただきます。また以前住んでいた地区のお祭りに行きたいという方はスタッフと一緒に外出してお祭りを楽しみました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共にするうえで、利用者様同士助け合う姿が見られる。また困っている方がいると、その方へ変わり職員に声をかけて下さる方もいらっしゃる。職員が利用者様同士の関係性を把握、共有し、席の配置、レクの内容を工夫することで、誰しもうれしいよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所での契約終了は、入院や医療をメインとしたケアが必要となった時、またお亡くなりになるケースが多い。入院や他の施設に移った後も、ご連絡をいただいたり、相談を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や生活歴、ご家族様からのお話の中から個々の思いなどを聞き取るよう努めている。思いを伝えることが難しい方は、その方のペースで無理のない生活が送れるよう支援している。また、小さなサインに気づき見逃さないよう、気を付けている。	月1回前後は外出ができるように心がけています。10時15時には飲み物のメニュー表をみていただきお好きな飲み物を飲んでいただいています。ご自宅と同じようにすごしていただけるよう注意しています。御家族様からは「楽しく過ごしてほしい」と移行を頂いていますので全スタッフで対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にできるだけ多くの情報を得られる様努力している。知りえた情報は職員間で共有、把握し適切な支援につなげられる様心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の希望するライフスタイルをお聞きし、なるべく沿った支援ができるように心がけている。また関わりの中でご本人様の有する力を知り、それを発揮できる場面を作れるように工夫している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は期間にとらわれず、本人の心身の状態の変化に応じて、介護計画書を作成している。ご本人様、ご家族様、主治医、介護職員などと話し合いを行い、その方が必要としているケアができるよう心掛けている。	10年以上勤務しているスタッフが多く常に話し合いをしながら介護計画を作成しています。介護計画は入居者の自立を心がけて作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践などは介護記録に記載し、特記事項は申し送りをする事で情報共有ができるよう努めている。ケアは良かったものは全職員で把握し、見直しが必要であれば随時話し合を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身の状態の変化に応じて、介護計画書の変更を行っている。突発的に生まれたニーズにも柔軟に対応できるよう、全職員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前どのような関わりがあったかを聞くようにしている。こちらの地域でも同じようにできることは継続できるようにしたいと思っている。また一人一人の力を発揮できる場を用意し、できるということを喜んでいただき、生活への潤いになるよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診する方、また協力医療機関の定期的な往診を受けられる方がいらっしゃいます。認知症の進行や身体状態の悪化により受診が難しくなり、24時間対応の協力医に変更する方が多い。協力医でない場合の受診は、同行もしくは必要な情報を提供し、医療との連携に努めている。	今までかかっていた病院から協力医療機関に変更する方がほとんどです。主治医・訪問看護・施設との連携がとれている為、緊急時はすばやい対応をとることが可能です。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在訪問看護ステーションと委託契約を結び、週に1回程度の訪問をしていただいている。健康状態について情報提供をさせていただき、その都度助言やアドバイスをいただいている。看取りの際にも指示をいただき適切な医療を受けることができ、ご家族様からも感謝の言葉をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には必ず管理者が同行し、医療機関への情報提供をさせていただいている。同行できない時には、担当看護師より連絡をいただき、情報提供をさせていただき、必要なものがある時には届けている。また退院時の会議にも参加することが多い。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、その時のご意向を聞いている。ご本人様の状態の変化により、ご家族様のご意向が変わる方が多いので、その都度再確認している。終末期に入った方は、十分な説明を主治医、訪問看護師と連携をとりながら、ご本人様とご家族様のご意向を尊重したケアを行うよう努めている。	終末期は皆の声が聞こえるフロアで生活をしていただいています。パーテーションをつけて居室をつくっています。御家族様から「最期はほほえみに帰りたい」とご希望をいただき対応しています。場所、治療内容の確認は随時行い御家族様の希望を受け入れています。お看取り時は公休スタッフもホームにきて最期の挨拶をしています。	研修等は実施していますが報告書が少ないです。報告書を提出することにより全スタッフが研修内容を把握することができ、全スタッフで共有することができます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、内部研修を開くことで対応の浸透を図っている。ただ現実には難しく、学んでいることがうまく発揮されない、頭が真っ白になってしまうことがあった。学んだものを知識として習得し、実践に活かせる様今後も努力したい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、全職員に浸透するよう定期的に勉強会を開いている。消防署の出前講座の際には助言やアドバイスをいただいている。BCPの作成もできているが、全職員での共有が満足ではないため、有事に動くための知識をしっかりと身に付けていきたい。	玄関には人数分のヘルメットを準備しています。規定以上の防災訓練を行い、入居者も一緒に外にできることを実施しています。備蓄品は最低3日間、薬も多めに処方してもらっています。地域の方も災害時は支援をしてくださるようになっています。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を把握し、その方に合ったお声かけを心掛けている。話の内容によっては、場所を変え1対1でお話するようにしている。また言葉の選び方も気を付け、自尊心を傷つけないようにしている。	以前、畑をやっていた方は夏にプランターで食べ物を育ててもらいます。家事仕事がお好きな方は下膳、コップ洗いなど手伝ってもらっています。その方ができることを制限しないですることはやっております。トイレ誘導などは耳もとで声をかけたりしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意見が言えたり、自己決定できる方には開かれた質問、意見が言えなかったり自己決定が難しい方には閉ざされた質問をさせていただいている。そうすることにより、幅広い選択肢の提供、また選びやすい選択肢の提供ができていると思う。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活であるため、すべてにおいて添えているわけではないが、できる限り個々の希望を大切にしている。意思表示できない方については、表情からくみ取るよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には、洋服を選んでいただいている。ヘアカットの際には希望の髪型をお願いする方もいる。伝えることが苦手な方については、ご家族様からご要望を伺っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできることを見極め、無理のないよう下準備や片づけを共に行っている。また食事形態もそれぞれに対応し、おいしく安全に召し上がって頂けるよう心掛けている。	器はできるだけ陶器を使用するようにしています。入居者の”食べたい”をできるだけメニューに採り入れています。毎食スタッフが食材を見ながらメニューを決めています。厨房とフロアーが一緒になっている為に匂い・音を楽しまれています。家族、地域の方が野菜を持ってきてくださることがあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎回記録に残し、全職員が把握できるようになっている。水分を摂りたがらない方には、ゼリーやおかゆなどごほ形態を変えたもので。低栄養の方については、医師から高カロリー飲料が処方されることもあり、栄養の確保ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力量に合わせた準備や声掛けを行っている。ご自身で行えない方はこちらでお手伝いさせていただき、口腔内の清潔に努めている。また歯の状態に合わせスポンジに変えたり、義歯の方には夜間の漬けおきをしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを全職員で把握している。なるべくトイレでの排泄を心掛け、場合によってはPTイレを使用していただいている。またその方にとって無駄なく使用できるパットやおむつの選定を随時職員間で話し合いながらご家族様に提案させていただいている。	排泄パターンを把握している為失禁などすくなく減っています。会議の中でパットの大きさ、時間など検討しパットを汚す回数を減らしています。パットが減ることによりパット代も軽減されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて情報の把握と共有をしている。排便が見られない時には、繊維質の食事やおやつ摂取や運動をしていただき、自然な排便ができるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的にご本人様の希望に合わせて入浴していただいているが、イベント時や職員の配置により時間を選べないときもある。入浴を楽しんでいただけるよう、季節のお湯にしたり、銭湯気分が味わえるよう、毎月「銭湯の日」を開催し、入浴後にコーヒー牛乳などを飲んでいただいている。	スタッフが自信をもって介護を行っている為、一般浴で最期まで入浴して頂くことが可能です。月1回銭湯をイメージして暖簾、入浴後にはコーヒー牛乳を飲み入浴を楽しみにされています。入居者の体調を見ながら週2回入浴をしていただいています。入浴を拒否される方はいらっしゃいません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入眠がスムーズにいくよう、穏やかな声掛けをしたり、日中活動的に過ごしていただけるよう働きかけている。また個々の状態に合わせて適度な休息をとっていただいている。ご自身でお部屋に行かれる方もいるので、夜間の睡眠の妨げにならない時間で離床していただくよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての薬の内容を全職員がしっかり把握できているわけではないが、どんなお薬を飲んでるかは把握している。個々に合わせた服薬支援をしている。どの方も飲み込むまでの見守りをし、落とさないよう心掛けている。新しい薬が出た際には、しばらくの間、変化がないか様子を見ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が楽しく過ごせる様、季節に合ったイベントや外出、行事食に力を入れている。現在移動スーパーが来てくれているので、嗜好品を選ぶ楽しみも増えていると思う。また個々の得意なことを理解し、無理のない様役割を持っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	すべての希望をかなえられるわけではないが、外出を計画する際には、皆さんの希望を伺うようにしている。散歩は日常的に行っているが、近隣の方との関わりが持てる大切なひと時となっている。感染症の心配がある中で、外出支援するのは難しいが、安全に楽しめる場所を全職員で提案し合い実施できている。	月1回の外出、出来る限り毎日近隣の散歩を行うようにしています。御家族様と一緒に外出をすることもあります。個別希望があった場合は出来る限り調整をして対応ができるように検討をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動スーパーの際には、ご自身でお支払いをいただいている。一人ひとりに合わせた方法で支援ができるように心掛けている。また、外出の際のお買い物も、ご利用者様にお支払いをしていただける機会として大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から電話がある時にはおつなぎしている。毎年暑中見舞いを送っていたが、今年は送ることができなかった。手紙を書ける方も減ってきてはいるが、お返事が来る喜びも味わっていただきたいので、今後も努力していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔にし皆様に居心地が良いとおっしゃる様に心がけている。定時に手すりやテーブル、ドアノブなどの消毒を行い衛生的にしている。リビングは季節を感じられる壁画や、天井からモビールを飾っている。また火災報知器の赤いランプが刺激になってしまう方があるので、非常時に問題がない程度に目隠しをしてある。	共有部には季節感がある飾り付けをしています。ホームで実施したイベントの写真も貼ってあり入居者が見ることがあります。コロナ禍になり外出が難しくなったので飾り付けには常に気をつけています。入居者・家族からも「明るくなった」と喜んでいただいています。入居者がお好きな皇室のカレンダーを飾ったり、懐かしい歌謡曲のテレビをみて過ごしていただいています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った者様同士で近くの席に座り、楽しく雑談する姿が見られる。居室での休息はさみしいという方は、リビングのソファで横になり、皆さんの声が聞こえるようにしている。共用空間では誰もが不快な思いをしないよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物をお持ちいただくよう伝えている。事業所のものを使う方も多いが、その場合にはなるべく、ご本人様の好きな柄を選んでいただいている。テレビや電気毛布、こたつを持ち込む方もいらっしゃる。個々のライフスタイルが継続できるようにご家族様に伝えている。	お好きな物をお持ちいただいています。電気毛布、こたつをお持ちになった方もいらっしゃいます。ホームにある備品を使いたいという方もいらっしゃるので使っていただいています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線にも危ないものは置かず、手すりやエレベーターを使用することで、安全で自立した生活が送れるようにしている。また個々に合わせ改良や増設が必要だと思われるものについては、代表に相談しできる限り対応してもらっている。		